

## 📷 第10回いわき文化春祭り



いわき芸術文化交流館アリオス



6/8(土)・9(日)

### 文化・芸能が集結!

#アリオス #文化 #芸能 #平中央公園 #いわき市文化協会

市内53団体（うち13団体が初参加）、約930人が日々の成果を発表する「第10回いわき文化春祭り」が、いわき芸術文化交流館アリオスで開催。「芸能の部」39団体、「展示の部」8団体、屋外ステージでは7団体の発表がありました。隣接する平中央公園では、キッチンカーがたくさん並び、親子連れなどが楽しんでいました。さらに本市出身で全国的に活躍している講談師・神田香織さんが特別出演するなど、2日間を通して大いに盛り上がりました。

## 写真が語る「いわき」の歴史



### 炭鉱跡地に向ける視線

日本は古代からおおよそ江戸時代まで受け継がれてきた有形・無形の伝統・文化などを守るために文化財保護に関する法整備をしてきました。しかし、明治時代以降、近代産業のなかで生まれた建築物や行政資料などは、たえず更新されることなく、文化的価値が置かれず、気づくと、その多くは記録保持されないうちに消失していきました。産業・経済人をはじめ一般住民は、そのことに気にもとめていませんでした。

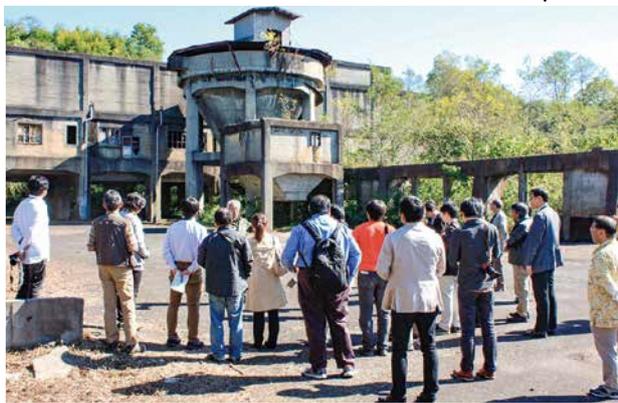
ところが、近代社会を支えてきた「産業遺産」（インダストリアル・ヘリテージ）という考え方が、産業革命を最初に起こしたイギリスから発信され、やがて世界的潮流となりました。日本においても、平成4（1992）年、世界遺産条約を批准したことにより、平成5（1993）年には、国の重要文化財に新たに「近代化遺産」という種別、さらに細分類として土木遺産・交通遺産・産業遺産の3種類が設けられました。いわき市において、このカテゴリーに入るのが産業（石炭・炭鉱）遺産であり、石炭用具（産業遺物）の一部が平成18（2006）年、「炭鉱の生産用具類」として有形

民俗文化財に指定されました。

しかし、産業遺構となる石炭積込場（常磐上湯長谷町）や扇風機上屋・中央選炭工場（内郷宮町）等の巨大施設には、管理上の課題などが横たわっており、臨時的に公開されているに過ぎません。

いわき独自の炭鉱遺構を観光と結びつける「ヘリテージ・ツーリズム」という考え方がありますが、こうした制約もあって浸透していないのが現状です。

（いわき地域学會 小宅幸一）



■写真 内郷宮町に遺る常磐炭礦内郷礦の中央選炭場跡を見学 [平成26（2014）年10月 小宅幸一撮影]